

平成29年度博物館施設評価集計シート（最終）

施設名 近代美術館

1. 数値目標による評価

(1) 全館共通項目

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	達成
目標値の達成度(100%未満)	未達
昨年度実績等から勘案	達成見込

	視点	項目	指標	目標値		評価	目標値の設定根拠	
				目標値	達成値		特記事項	
1	利用状況	利用者数	年間入館者とアウトリーチ参加者数	247,440	人	未達	前年度実績(過去5か年の実績から最高・最低値を除いた平均と前年実績との比較) 4月19,789人、5月20,270人、6月32,446人、7月16,120人、8月23,179人、9月19,102人、10月17,590人、11月24,607人、12月15,592人、1月11,794人、2月17,273人、3月	
				239,511	人			
2	利用状況	常設展観覧者	年間常設展観覧者数	39,560	人	未達	前年度実績(過去5か年の実績から最高・最低値を除いた平均と前年実績との比較) H28 4期 968人、H29 1期 8,035人、2期 12,597人、3期 10,008人、4期 7,344人	
				38,952	人			
3	広聴・広報	事業情報の発信	対マスコミ情報発信件数	2,190	件	未達	前年度実績(過去5か年の実績から最高・最低値を除いた平均と前年実績との比較)	
				2,100	件			
4	利用状況	経営努力	観覧料および事業等収入額	55,821,000	円	未達	当該年度予算計上額	
				51,756,020	円			

(2) 館別独自項目

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	達成
目標値の達成度(100%未満)	未達
昨年度実績等から勘案	達成見込

	視点	項目	指標	目標値		評価	目標値の設定根拠	
				目標値	達成値		特記事項	
1	企画展	入館者	企画展の観覧者数	52,000	人	未達	過去の企画展実績をもとに設定 川原慶賀 7,763人、遠藤利克展 9,981人、駒井哲郎展 3,904人、ディエゴ・リベラの時代10,382人、版画の景色7,077人	
				39,107	人			
2	学校との連携	学校利用	学校団体の美術館利用校数	83	校	未達	平成28年度実績 5月 5校、6月 3校、7月 7校、8月 5校、9月 3校、10月 5校、11月 13校、12月 7校、1月 2校、3月 4校	
				54	校			
3	学校との連携	授業協力	学校での鑑賞授業の回数	39	校	達成	平成28年度実績 6月 2校、7月 1校、8月 1校、9月 4校、10月 9校、11月 5校、12月 4校、1月 5校、2月 7校、3月 4校	
				42	校			
4	子供向け事業	MOMASの扉	MOMASの扉開催回数及び参加人数	51回2838人	回	達成	平成28年度実績	
				44回3026人	回			
5	利用状況	情報提供サービス	年間レファレンス対応件数	606	件	未達	平成28年度実績 4月 50件、5月 42件、6月 46件、7月 41件、8月 52件、9月 39件、10月 44件、11月 51件、12月 35件、1月 44件、2月 37件、3月 41件	
				522	件			
6	利用状況	インターネットの活用	年間HPアクセス件数	811,373	件	達成	平成28年度実績 4月 63,960件、5月 77,729件、6月 61,904件、7月 78,205件、8月 119,292件、9月 69,735件、10月 68,858件、11月 83,025件、12月 55,766件、1月 54,974件、2月 53,988件、3月 68,411件	
				851,793	件			
7	広報	広報成果	印刷媒体での掲載件数	315	件	達成	平成28年度実績	
				319	件			
8	満足度	MOMASコレクションアンケート	アンケートでのMOMASコレクション常設展満足度	80.0	%	達成	平成28年度実績 93.5% 第1期94%、第2期98%、第3期97%、第4期98%	
				96.8	%			
9	満足度	企画展アンケート	アンケートでの企画展満足度	80.0	%	達成	平成28年度実績 93.8% 川原慶賀展94%、遠藤利克展96%、駒井哲郎展97%、ディエゴ・リベラの時代95%、版画の景色94%	
				95.2	%			

年度内に取り組んだ重点事業、新たな取り組み等

事業の概要	<p>1 企画展「ロシア科学アカデミー図書館所蔵 川原慶賀の植物図譜」の実施(4/22～7/16) ロシア科学アカデミー図書館が所蔵する植物図譜を中心に、江戸時代後期の絵師、川原慶賀の作品を紹介する。</p> <p>2 企画展「遠藤利克展—聖性の考古学」の実施(7/15～8/31) 国際的な舞台で活躍する日本を代表する彫刻家である遠藤利克の作品を、新作を交え紹介する。</p> <p>3 企画展「駒井哲郎展—夢の散策者」の実施(9/12～10/9) 戦後日本を代表する銅版画家、駒井哲郎の作品を、当館が所蔵するコレクションを中心に紹介する。</p> <p>4 企画展「ディエゴ・リベラの時代—メキシコの夢とともに」の実施(10/21～12/10) メキシコを代表する画家であるディエゴ・リベラの作品とともに、彼と同時代の作家も紹介し、メキシコ近代美術の魅力を探る。</p> <p>5 企画展「版画の景色—現代版画センターの軌跡」の実施(1/16～3/25) 版画の普及とコレクターの育成を目指した現代版画センターの活動の軌跡を、作品と資料からたどる。</p>
事業の実施状況と過程	<p>1 企画展「ロシア科学アカデミー図書館所蔵 川原慶賀の植物図譜」(4/22～7/16)では、観覧者見込7,000人に対し、7,763人の方々に観覧いただいた。また、図録も完売するほど、好評を博した。</p> <p>2 企画展「遠藤利克展—聖性の考古学」(7/15～8/31)では、観覧者見込12,000人に対し、9,981人の方々に観覧いただいた。また、図録も最終日を持たずに完売するなど好評を博した。</p> <p>3 企画展「駒井哲郎 夢の散策者」(9/12～10/9)では、観覧者見込7,000人に対し、3,904人の方々に観覧いただいた。</p> <p>4 企画展「ディエゴ・リベラの時代—メキシコの夢とともに」(10/21～12/10)では、観覧者見込17,000人に対し、10,382人の方々に観覧いただいた。また、新聞各紙に関連記事が掲載され、好評を博した。</p> <p>5 企画展「版画の景色—現代版画センターの軌跡」の実施(1/16～3/25)では、観覧者見込9,000人に対し、7,077人の方々に観覧いただいた。また、図録もほぼ完売し、好評を博した。</p> <p>6 平成29年度から「ぐるっとパス」に参加し、新たな来館者の開拓を行った。企画展の観覧者アンケートでも、「ぐるっとパス」により、はじめて当館のことを知り、来館された方が複数いらっしゃった。利用者は2,845人であった。</p> <p>7 SNSを活用した情報発信では、これまで以上に、当館が関連するツイートに対しリツイートすることにより、情報の拡散を図り、利用者増を図っている。</p> <p>8 学校団体の利用については、授業数や行事削減のため減少傾向にあるが、貸出、授業協力、研修協力の需要は増加している。</p> <p>教材の提供を含め、美術館ならではの取り組み、知識を広く県内で活用できる連携を育みたい。</p>
事業の成果	<p>年間利用者数は、天候の影響などもあり目標には到達しなかったが、開館35周年を踏まえ、当館の特色を打ち出した企画展を連続的に開催するなど、意欲的な取り組みができた。</p> <p>図録についても、「ロシア科学アカデミー図書館所蔵 川原慶賀の植物図譜」展、「遠藤利克展—聖性の考古学」展、「版画の景色—現代版画センターの軌跡」展で完売するなど、好評いただくことができた。</p> <p>常設展及び企画展のアンケートの満足度は、それぞれ95%を超え、高い満足度を得ている。</p> <p>また、本県にゆかりのある瑛九の「手」を新たに購入し、常設展において展示し、好評を博した。</p> <p>平成29年度から「ぐるっとパス」に参加し、これまで当館のことを知らなかった都内在住者など新たな来館者の開拓に努めた。</p> <p>学校との連携事業、子供向け事業については、効率的な運営を意識して実施方法を見直し、MOMASのとびらの参加人員を増やすことができた。引き続き、地域に広く広報し、親しまれる美術館になるよう努めたい。</p>

基礎データ

職員数 (学芸員数)	22人 (10人)	総予算額 (人件費を除く)	208,739,000円	職員一人あたりの県民人口	331,567人
収蔵資料総点数 (H30.3末現在)	3,706点	事業経費 (上記の内数)	159,852,000円	利用者一人あたりのコスト (平成28年度)	816.8円
平成29年度 収集資料点数	281点	特定財源予算額 (うち観覧料収入)	55,821,000円 (28,873,000円)	県民人口に対する利用者割合 (平成28年度)	3.39%

(注)平成29年度4月1日現在の埼玉県推計人口は7,294,490人である

2. 全館共通項目チェックリスト

近代美術館

項目	チェック内容	評価基準	
		評価(A～C)	備考
		完了または順調に進捗している問題がない	A
		着手状態乃至課題が残されている状態	B
		未着手状態	C
①	資料の収集方針、収集計画を策定しているか	A	美術資料収集基本方針
②	収集方針、収集計画に基づき資料収集を行っているか	A	同上
③	特色あるコレクションの形成に努めているか	A	同上

	④	有形資料に限らず、映像資料や情報資料等も積極的に収集しているか	A	同上
資料の収集	⑤	収集した資料についての調査を実施し、調書を作成しているか	A	美術資料取扱規程
	⑥	客観的な評価を経て購入・受け入れをしているか	A	選考評価委員会
	⑦	規定の資料台帳を整備し、資料を登録しているか	A	美術資料取扱規程
	⑧	規定の収集資料ラベルを設け、資料に添付しているか	A	同上
	⑨	資料の基本データ記録を作成し管理しているか	A	同上
	⑩	収集時に資料の殺虫処理・クリーニングを適切に行っているか	A	燻蒸の実施
	資料の保存管理	①	収蔵・展示資料の保存管理に関する要項が整備されているか	A
②		収蔵・展示資料の保存管理に関する要項を職員に周知し、それに基づいた資料の保存管理を実施しているか	A	同上
③		IPMの考えに基づいた資料の保存管理について、最新情報の収集や研修を行っているか	A	同上
④		資料特性に即した適切な収蔵施設を整備しているか	A	同上
⑤		収集資料の清掃・修理等を適切に行っているか	A	同上
⑥		有害生物・室内ガス・光種等のモニタリングを実施し、その結果に基づき適切な対処をしているか	A	同上
⑦		資料の殺虫殺菌処理を適切に行っているか	A	同上
⑧		温湿度の日常的な管理・記録化等を行っているか	A	同上
⑨		光量の管理を適切に行っているか	A	同上
⑩		資料の所在確認作業を定期的に行っているか	A	同上
⑪		資料の劣化状況を定期的に確認しているか	A	同上
⑫		資料の修復や保存処理等の措置を計画的かつ必要に応じて行っているか	B	同上
⑬		借用資料・寄託資料の更新手続きは適正に行われているか	A	美術資料取扱規程
項目		チェック内容	評価(A~C)	備考
資料の保存管理	⑭	資料のデータベースを整備するとともに、情報を適宜更新しているか	A	同上
	⑮	収蔵庫の入退室管理簿を整備するとともに、適正に管理しているか	A	同上
	⑯	収蔵資料の出納簿を整備するとともに、適正に管理しているか	B	同上
	⑰	収蔵庫の鍵を適正に管理しているか	A	同上
資料の	①	収蔵資料の活用に関して規程・手続きを整備しているか	A	同上
	②	収蔵資料の活用に関する手続き等を公開しているか	B	関係例規集のweb公開
	③	収蔵資料を展示に活用しているか	A	MOMASコレクション
	④	収蔵資料の館外貸し出しに適切に対応しているか	A	
	⑤	収蔵資料の特別利用(熟覧・撮影等・原板利用等)に適切に対応しているか	A	

活用	⑥	資料の基礎情報・解説付目録(紙・電子)を適宜作成・更新・公開しているか	A	収藏品データベース
	⑦	収蔵資料をホームページ等で紹介・更新しているか	A	収藏品データベース、解説アプリ
常設展示	①	資料の展示環境を適切に管理しているか	A	
	②	展示関連のサイン・パネル等がわかりやすいか	A	
	③	展示室内に監視員や監視カメラ等を配置しているか	A	
	④	展示情報を適宜修正・更新しているか	A	
	⑤	展示設備等を適宜点検しているか	A	
	⑥	展示ガイド等を作成しているか	A	展示替え毎に更新
	⑦	解説リーフレット等を作成しているか	A	展示替え毎に更新
	⑧	展示解説等を適宜実施しているか	A	ボランティア、学芸員
	⑨	観覧者アンケートを実施し、満足度等を測定しているか	A	来館者アンケートの実施
	⑩	アンケート結果に基づいた展示改善を実施しているか	A	アンケートの実施・分析
	⑪	県民に対し展示情報を適宜発信しているか	A	HP、イベントチラシ
学習支援事業	①	事業情報を利用者に広く発信しているか	A	印刷物、HP、SNS
	②	多様な媒体による参加申し込み方法を用意しているか	A	ハガキ、電話、fax、メール等
	③	多様な参加者を想定したプログラムを用意しているか	A	一般、子供(未就学児含む)
	④	参加者に対しサポート体制を整備しているか	A	ボランティアスタッフの配置
項目	チェック内容		評価(A~C)	備考
学習支援事業	⑤	事業実施にあたり参加者の安全に配慮しているか	A	ボランティアスタッフの配置、注意喚起
	⑥	参加者を対象としたアンケートを実施し、満足度等を測定しているか	A	アンケートの実施
	⑦	アンケート結果に基づいてプログラムの開発・改善を行っているか	B	アンケートの集計・分析
	⑧	来館者用の図書・情報コーナーを設けているか	A	資料閲覧室・チラシコーナーの設置
	⑨	学芸員実習やインターンシップの学生を受け入れているか	A	学芸員実習及びインターンシップ受け入れ要綱
県民との連携・協働	①	ボランティア制度を導入しているか	A	展示解説ボランティア、イベント対応等
	②	ボランティアの活動に関する規程が整備され、適切に運用されているか	A	ボランティアの種別ごとに整備・運営
	③	ボランティアの募集・認定の規程が整備され、適切に運用されているか	A	ボランティアの種別ごとに整備・運営
	④	ボランティアの研修システムが確立され、適切に実施されているか	A	ボランティアの種別ごとに整備
	⑤	ボランティアの活動成果が公開されているか	A	HP及び年報等での活動報告・予告
	⑥	友の会、NPO等が館事業に参加する機会を設けているか	A	レセプション参加、友の会向け解説
	⑦	地域社会で実施されるイベント等に館として積極的に関わっているか	B	地域の商店会、自治会イベント等
	①	調査研究テーマを定めているか	A	事業おと71個別

調査研究活動	②	調査研究のための予算措置等に努力しているか	B	
	③	調査研究活動を遂行するために必要な専門研修に参加し、館内に情報提供しているか	A	資料保存、教育普及
	④	収集している資料に関連する専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	A	MOMASコレクション展示
	⑤	資料の保存・管理、展示・教育普及、博物館経営等の博物館学分野での調査研究に取り組んでいるか	A	専門研修に参加
	⑥	地域貢献の視点から、館の所在する周辺地域や地域資料についての調査研究に取り組んでいるか	A	MOMASコレクション展示
	⑦	学芸員個々の専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	B	
	⑧	他館や他機関との間で共同研究等を行っているか	A	巡回展の共同企画
	⑨	調査研究の経過や成果を、さまざまな媒体・方法(著作物、展示、講演、研究発表等)で公開しているか	A	ギャラリートーク
	⑩	調査研究の成果を、社会貢献の視点から国、市町村、地域社会等にさまざまな形で還元しているか	A	レファレンス等情報提供
	施設・アメニティー	①	施設の維持・改善についての計画を策定しているか	A
②		展示室、収蔵庫などで耐震対策を行っているか	A	テグス止め等
③		危機管理マニュアルを整備しているか	A	毎年度更新
④		防災・救急訓練等を定期的実施しているか	A	毎年度実施
⑤		休憩コーナー、授乳コーナー、喫茶コーナー等を設置または状況により対応しているか	A	毎年度実施
⑥		レンタル用の車椅子、ベビーカーは整備されているか	A	車椅子3台 ベビーカー5台
項目	チェック内容		評価(A~C)	備考
施設・アメニティー	⑦	バリアフリー化など、改善必要箇所の把握のため自己点検を行っているか	A	施設設備点検の実施
	⑧	一般駐車場と障害者用駐車場を区別しているか	A	障害者用3台
	⑨	手すり、点字ブロック、音声ガイダンスなどユニバーサルデザイン化への取り組みがなされているか	A	点字ブロック、エレベーター、自動ドア等
	⑩	利用情報や館内サインはわかりやすく表示されているか	A	エントランスに設置
	⑪	館内サインの英文表記など国際化への対応はとられているか	B	サインの一部英文表記
	⑫	利用実態に応じて開館時間を設定しているか	A	10:00~17:30
	⑬	便益施設として利用者数に見合った施設・設備を確保しているか、または状況に応じて対応しているか	A	バス駐車場として公園路を利用
施設の利活	①	施設利用のための要項、マニュアルを策定しているか	A	各種利用要領、利用案内等
	②	施設利用のための情報を公開しているか	A	HPで「利用案内」を公開
	③	施設を一般の利用に提供しているか	A	一般展示室、講堂
	④	施設を学校団体等の利用に提供しているか	A	一般展示室、講座室等
	⑤	施設が地域の賑わい創造や活性化に活用されているか	A	SMF事業等で施設を利用
	⑥	地域や他施設・機関・学校等との連携を図っているか	A	他施設と連携した割引(ぐるっとバス)等

3. 館別独自項目チェックリスト

近代美術館

評価基準

完了または順調に進捗していて問題がない	A
着手状態乃至課題が残されている状態	B
未着手状態	C

項目	チェック内容	評価(A~C)	備考
展示事業の実施	① 展示観覧者アンケートを実施し、満足度を測定しているか	A	
	② 展示観覧者の目標数を設定し、その達成に努力しているか	B	
	③ 企画展の理解を深めるため学芸員による展示解説、講演会等を適宜実施しているか	A	ギャラリートークの実施
	④ 展示内容に即した弾力的な広報活動を実践しているか	A	広報紙の内容・印刷物配布先の見直し
	⑤ 外部資金の導入に努力しているか	A	遠藤展
教育普及及び連携・支援活動の	① 収蔵作品の理解を図るため学芸員による解説等を適宜実施しているか	A	サンデートーク、ギャラリートーク等
	② 美術に対する理解を深めるテーマを設定した事業を適宜実施しているか	A	MOMASのとびら、美術館講座の実施
	③ 授業や部活などの受け入れ体制を整備しているか	A	授業、部活動、インターンの受け入れ
	④ 教員の資質向上を目的とした研修を実施しているか	A	教員美術講座、美術館利用研究会
	⑤ 館職員を学校へ派遣し授業協力を実施しているか	A	複製画による鑑賞授業の実施
	⑥ 教育普及用資料の貸し出しを実施しているか	A	複製画、鑑賞キット、アートカードの貸出
	⑦ 大学教員と協働しながら学生を適切に指導しているか	A	埼玉大学との授業連携等(単位認定)
地域・他	① 地域・他機関との交流・協力事業を実施しているか	A	地元商店街、自治会との事業協力
	② 企画展等を通じ国外美術館等と相互交流を図っているか	A	川原慶賀展、リベラ展等

平成29年度 博物館施設 総合評価(最終)

施設名 近代美術館

		達成	未達	
全館共通	数値目標による評価	0	4	
各館独自	数値目標による評価	6	3	

		完了A	課題有B	未着手C
全館共通	チェックリストによる評価	82	8	0
各館独自	チェックリストによる評価	13	1	0

自己評価総括

評	<p>利用者数は、天候の影響などもあり目標値を達成できなかったが、常設展及び企画展のアンケート満足度は95%を超えており、高い水準を維持している。また、川原慶賀の植物図譜展、遠藤利克展、現代版画センターの軌跡展で図録が完売するなど、多くの観覧者の好評を博した。</p> <p>並み事業では、子供向け事業である「MOMASのとびら」は運営方法を改良し、昨年の参加者数実績を上</p>
---	--

価	<p>目及予算では、丁度同予算である「MOMASのひろ」は運営方法を元直し、昨年の参加人数を根拠として上回る参加者を得ることができた。また、学校との連携では、学校の利用については、授業数や行事削減のため目標値を下回っているが、貸出、授業協力、研修協力は増加している。</p>
課題	<p>公園を訪れる方は多いが、その方々を直接、常設展や企画展の観覧者につなげていくことができていない。美術館の利用者を増加させていくため、今後も魅力ある事業を実施していく必要がある。</p> <p>また、これまで埼玉県美術館を訪れることのなかった方々を利用者として開拓していく努力も引き続き必要である。</p> <p>学校利用は現場の合わせた柔軟な対応が求められるため、美術館の利用方法に様々な方法があることを、管理職、教員向けにそれぞれ継続的に周知していく必要がある。</p>
対応の方向	<p>一般的な美術ファン以外の方々にも来館いただけるような魅力的な展示を企画、実施し、来館者のすそ野を広げるよう努める。</p> <p>また、平成29年度に購入した瑛九の「手」に続き、優れた美術作品を購入できるよう検討を進める。</p> <p>29年度から参加した「ぐるっとパス」の利用が好調であることから、30年度以降も参加し、新たな来館者の獲得を行う。</p> <p>教育普及事業については、継続した利用につながるように学校や教員とのネットワークを構築し、連携を密にして利用増につなげていく。</p>

評価結果に対するコメント

1. 全体に係る評価

各館協議会・委員会の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 博物館全体の共通項目の評価だけでなく、美術館学芸員の特性を踏まえた評価も大切だと思う。 ・ 数値・数量による定量的な評価も大切だが、調査研究やコレクションの質など定性的な面が大変重要である。 ・ 面白い展覧会が開催されているし、作品についての調査研究も進んでいると思う。
--------------	---

2. 全館共通項目に係る評価

評価小委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全館共通評価項目チェックリスト90のうち、A評価が82であり、博物館としての諸使命を十分に果たしているといえる。 ・ 利用者数等は、天候の影響などもあり、目標数値に達していないが、単年度で評価するには早計であると考えます。 ・ 「調査研究活動」に関わって、とくに高く評価されるのは、開館35周年をふまえて実施した企画展を連続的に開催し、完売する企画展図録が複数出るなど、旺盛な活動を実施し、満足度も高かったことである。 ・ 「常設展示」にかかわっても、アンケートで高い満足度を得ており、常設展示・企画展示の質が高く評価されていることを示している。 ・ 「施設の利活用」「資料の活用」については、学校側の事情から学校団体の利用が減少するなかで、貸し出し・授業協力・研修協力の需要増加に応じており(独自評価項目も参照)、高く評価できる。 ・ 学芸員の個々の調査研究は長い目で見れば面白い展覧会企画にも結びつくはずである。個人の努力に頼るだけでなく、調査研究にも時間のさける環境にも配慮していただきたい。
----------	--